岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　畠敷地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う業務委託（交付金）

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　その他　掘削・掘削のり面

ボーリング名	R2B-6	調査位置	広島県三次市畠敷町	北緯	34° 48′ 53.1714″
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	令和2年12月17日～ 令和2年12月23日	東経	132° 52′ 36.5768″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 185.37m	角度	180°（上）、90°、0°（下）	方向	北 0°、90°（東）、180°（南）、270°（西）
総削孔長	24.00m	地盤勾配	水平 0°、鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO-D / エンジン：ヤンマー TF-90M / ポンプ：東邦製BG-3C

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率（%）／最大コア長（cm）／RQD（%）	記事
1				礫混じり砂	茶褐								崖錐堆積物。細～中砂を主体とする。φ5cm程度までの火山岩角礫を混入する。GL-1.5mまで植物根を混入する。GL-2.45m付近，傾斜65°の地層境界面
2	182.72	2.65											GL-2.70m付近，傾斜30°の断層面
	182.42	2.95		断層粘土	赤褐	w5	h3	E	Ⅶ	d	D		GL-2.70～2.90m間，赤褐色の粘土。これ以深，コアの破砕が著しく認められる。一部φ1cm程度の火山岩角礫がコア表面に認められる。下部境界の傾斜は50°。
3													断層破砕帯。全体に破砕が進行する。指圧によって容易に粉砕し，土砂～角礫状となる。
4				流紋岩	淡黄褐		h3	D	Ⅵ				
5	180.57	4.80				w5				d	D		GL-5.38～6.00m間，岩芯まで軟質化し粘土質である。
6				安山岩	青灰		h4	E	Ⅶ				白色粘土が不規則に入り混じる。
	179.05	6.32					h3	D	Ⅵ				
							h4	E	Ⅶ				GL-6.32～6.45m間，脆弱な軟質粘土状をなす。
7	178.37	7.00		流紋岩	淡黄褐		h3	D	Ⅵ				破砕の進行により，指圧で粉砕し主に砂状となる。GL-17.52～17.78m間の硬質部を除く，以下の深度では白色の粘土細脈が認められる；7.35m，7.90-8.00m，9.95m，10.50m，11.45m，11.65m，16.35m，23.70m。
8													
9													GL-14.75mまでは固結度が小さく，GL-8.55m付近を除き，亀裂として認識できない。
10													GL-7.4～7.8m間，変質し褐色味を帯びる。7.75m付近には傾斜60度のせん断面が認められる。
11									Ⅵ				GL-9.75m付近で色調が暗灰から青灰に変わるが，硬軟や割れ目形状に変化は認められない。GL-10.5m付近，幅2cmの白色粘土を挟み軟質となる。
12					青灰	w4	h3	D		d			GL-11.6m付近，傾斜60°のせん断面が認められ，褐色に変質し軟質化する。
13													GL-12.00～14.00mは同程度の破砕状況を示す。
14													GL-13.6mや14.3m付近，褐色を帯びる。
15													GL-14.75m以深，やや硬質化し礫状～岩片状となる部分が認められる。
16				安山岩	～				V		D		亀裂面が認識可能な硬質部分と指圧で粉砕し土砂状となる部分が混在している。
17													GL-14.9m付近，傾斜70°のせん断面が確認され，幅2cmの褐色粘土を挟む。
						w3	h2	C	Ⅳ	c			GL-17.52～17.78m間，部分的に硬質となり，岩片状で採取される。
18													
19						w4	h3	D	V	d			GL-17.78～19.75mは指圧粉砕可能で，土砂状となる。
20					暗灰	w3	h2	C	Ⅳ	c			GL-19.75～20.00m間は岩片状となる。
						w4	h3	D	V	d			GI-19.95m付近，傾斜60°の亀裂面に水平方向から30°傾斜した条線が確認される。
21						w3	h2	C		c			GL-20.90～21.25m間および22.00～23.25m間は，岩芯まで破砕し指圧で容易に粉砕する。
						w5	h3	E	Ⅵ	d			GL-20.00～24.00m間，SPTでは貫入不能となる，破砕により軟質化した箇所が部分的に認められ，硬軟は不均質な性状を示す。
22						w4		D	V				GL-22.00～23.00m間，コア脱落。
23						w5		E	Ⅵ				GL-23.00～24.00mでは傾斜40°程度の軟質な白色粘土が部分的に認められる。
						w4		D	V				
24	161.37	24.00											
25													

孔内水位／測定日：12/18 2.10；12/23 3.40、3.70、4.30；12/21 4.30

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
12	1.15	12 / 300		
	1.45			
9	2.15	9 / 300		
	2.45			
23	3.15	23 / 300		
	3.45			
50以上	4.15	50 / 170	170	
	4.32			
50以上	5.15	50 / 230	230	
	5.38			
50以上	6.15	50 / 170	170	
	6.32			
50以上	7.05	50 / 90	90	
	7.14			
50以上	8.15	50 / 160	160	
	8.31			
50以上	9.15	50 / 160	160	
	9.31			
50以上	10.15	50 / 190	190	
	10.34			
50以上	11.15	50 / 170	170	
	11.32			
50以上	12.05	50 / 90	90	
	12.14			
50以上	13.05	50 / 90	90	
	13.14			
50以上	14.00	50 / 50	50	
	14.05			
50以上	15.00	50 / 20	20	
	15.02			
50以上	16.00	貫入不能		
50以上	17.00	50 / 20	20	
	17.02			
50以上	18.00	50 / 60	60	
	18.06			
50以上	19.00	50 / 50	50	
	19.05			
50以上	20.00	貫入不能		
50以上	21.00	貫入不能		
50以上	22.00	貫入不能		
50以上	23.00	貫入不能		
50以上	24.00	貫入不能		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔日	削孔速度（cm/h）	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	削水・送水量（L/min）	排水量（L/min）
12/17	66	66／ケーシング	打込み／打込みシュー	0	0	0	W1 0	0
12/17			ダブル／メタル	500	200	1	W2 25	25
12/18	26							
12/18	75			300	200	0	W2 25	25
12/19				500	200	0	W2 25	25
12/19	53			100	300			
12/21				200	300			
12/21	26		ダブル／ダイヤ	0	300	0	W2 3	3
12/22				100	300			
12/22	66		ダブル／メタル	600	200	0	W2 25	25
12/23		66	ダブル／メタル	700	200			